

れからご要望等を、是非記していただいて、こちらの方に出していただければ、というふう  
に思っております。それから質問等を随時お願いしたいんですけども、質問、コメントで  
すね、その際に所属とお名前を是非ご紹介いただきたいと思います。これは録音の関係で、  
皆さんからのご意見を後でまとめさせていただく予定ですので、われわれの研究会の資料に  
させていただきますので、是非、お名前とです、ご所属をお願い致します。それから最後  
に、この公開研究会の模様、あるいはこのオープンハウスとかそのシンポジウム全体を通じ  
てなんですけれども、いま後ろにカメラとマイクが参っておりますが、この放送教育開発セ  
ンターの紹介ビデオを現在制作中でありまして、その関係で皆さんの顔がひょっとして入  
るかも、カメラの方に映されることがあるかも知れません。その点についてご了承いただき  
まして、煩わしいことがあるかも知れませんが、どうぞお許し願いたいというふう  
に思いますので、その点もよろしくお願い申し上げます。

それでは、最初に問題提起を伊藤秀子助教授の方からお願い致します。

## 共同研究の概要と問題提起

### 伊藤秀子（放送教育開発センター助教授）



**伊藤：**先程ご紹介いただきました共同研究班の主査  
をやらせていただいております伊藤でございます。こ  
の研究プロジェクトは昨年発足しまして、3年計画で  
やっております。今年は2年目で、ちょうど中間段階  
ですので、こちらの発表と共に、皆さんからもいろ  
いろご意見をいただきたいと思ひまして、公開研究会を  
計画致しました。まず、私共の研究プロジェクトの目  
的をお話しします。

大学における教授学習過程を映像化して、その形態と機能を分析し、授業改善のための支  
援システムを開発することを目的としています。これによって大学間の共同研究体制を確立  
し、大学教育の向上と革新に貢献しようというわけです。(図I-1)

次に具体的な方法についてお話しします。これは、お隣の小会議室の方にパネルの展示も  
してございますので、また後程ご覧になっていただきたいと思ひます。図I-2に示すよう  
に、これが大学です。大学では、講義とか、実験とか、ゼミ、演習、実習などいろいろな形  
態の授業が行われております。それを映像に撮ります。そして、基本的にはその授業をなさ  
った先生が、ビデオをまず自分で見直してみます。つまり、自分の授業を振り返って工夫・改  
善に役立てようということを計画しております。勿論、研究会に持寄って、皆で検討したり  
とか、そういうことも致しますけれども、まず自分の授業を研究対象として、自分でビデオ  
を見直して改善点を探り出そうというわけです。こういう映像が、センターの方に集まって  
参ります。それから、その他にいろいろ工夫・改善の事例についての調査を行ひまして —

今日もアンケート用紙を入れさせていただきましたが— そういう事例をセンターの方に収集して来ます。そして、放送教育開発センターでは、後程お見せしますが、研究班、いろいろな研究班に分かれまして、研究を行います。これらの研究結果を全部このシステムに統合しまして、また全国の大学へ返していくというような計画です。

### 研究の目的

大学における教授学習過程を映像化してその形態と機能を分析し、授業改善のための支援システムを開発する。

これにより、大学間の共同研究体制を確立し、大学教育の向上と革新に貢献する。

図 I - 1

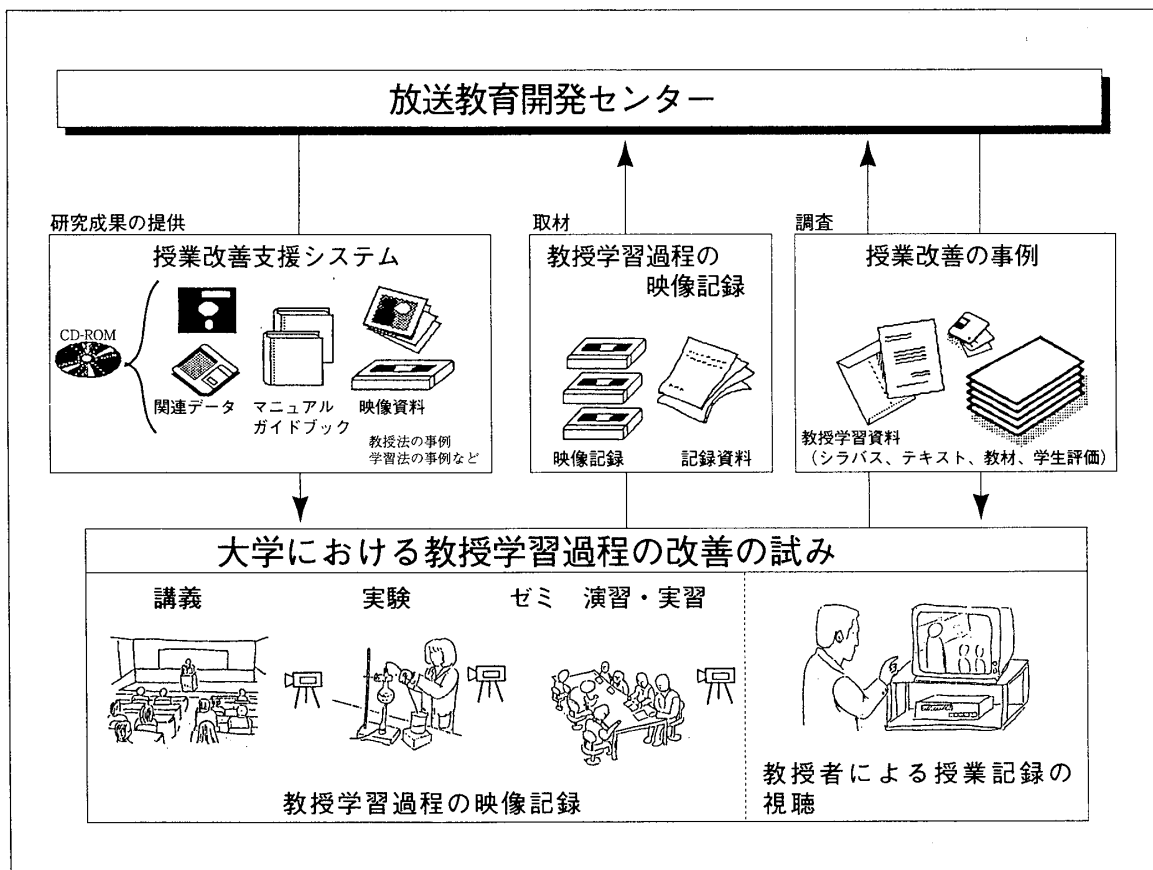


図 I - 2

研究は、基礎研究と応用研究に分かれておりまして、それぞれ、図 I-3 のような課題を持ってやっております。これらの詳細については、今日は省かせていただきますが、常に基礎研究と応用研究の関連を考えながらやっていこうというのが基本的な考え方です。

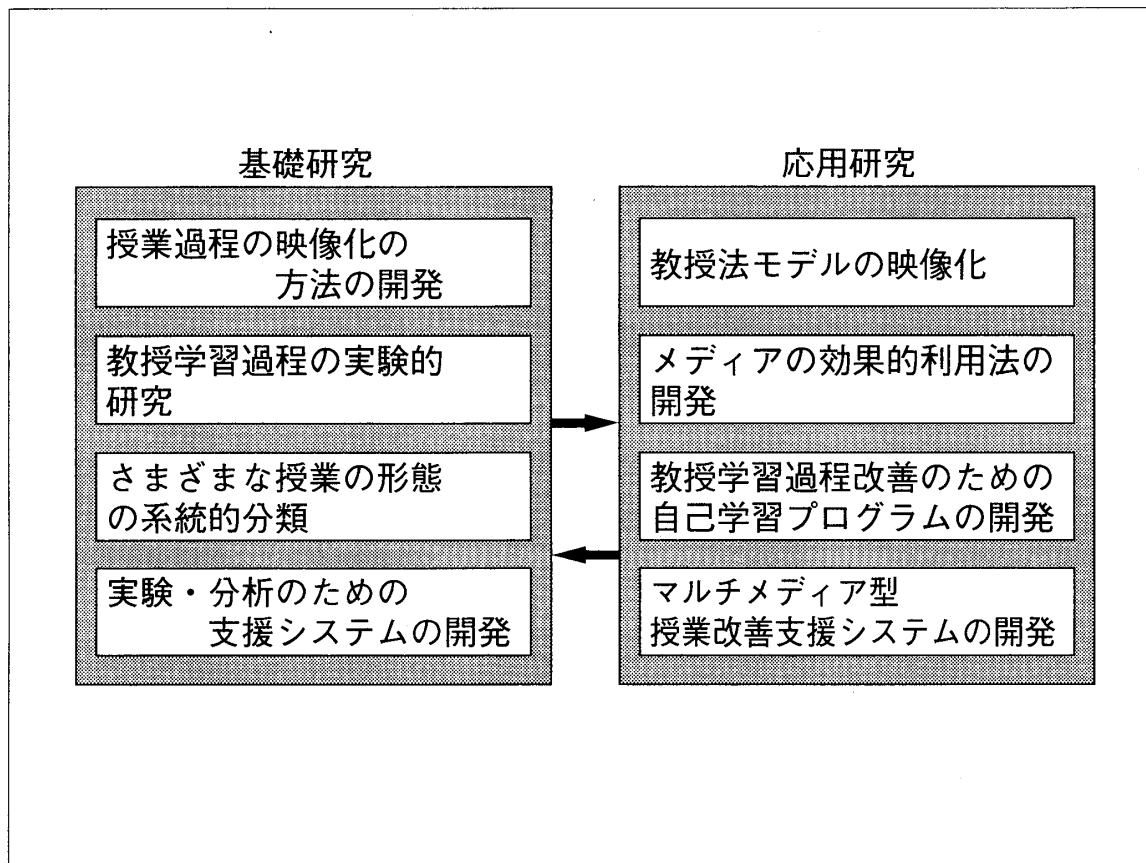


図 I-3

それでは次に、この研究プロジェクトの特色をお話ししたいと思います。今、大学の授業改善というのは、大変アップ・トゥ・デートなトピックになっておりますけれども、われわれの研究班では、そういうトピックに対して、研究としてもどのようにアプローチ出来るかということを考えております。特色をあげれば次のようなものになるのではないかと思います。この内容は「媒」の方に書いてございますが、OHPでも説明させていただきます。

まず第1点は、フィールドスタディということで、授業の行われている現場を、映像によって直接対象化するという事です。ということは、具体的なモデルを提供出来るということです。具体的な場面を撮っておりますので。

第2点は、教授学習過程の実験的研究ということです。どのような方法が効果的か、教材の提示法はどのようにしたらよいかなどについて、実験的に検討していきます。

第3点は、学習過程の中からの教授法改善です。学習者の反応をとらえて教授法を考えようということです。教える方も重要だと思んですけど、教えてそれが効果を持つためには、やはり学習者の実態とか、興味とか関心とか、そういうものをとらえていって、それに基づいて教授法を考えるということが重要ではないかと思います。

第4点として、自己学習プログラムの開発ということがあげられます。この1つ目は、自己モデリングによる教授法改善ということです。先程、図I-2の右下の方に出ておりましたが、自分自身をモデルとして改善していくということです。ですから、この研究によって画一的な教授法を提案するのではなくて、教授者自身が授業の工夫・改善をするのを支援することになります。この点はこのプロジェクトの特徴として強調すべき点だと思います。それから、これは教授者の教授法に関する学習ですけど、学び方ということも大切です。先程言いましたように学習者の方にも目を向けることが必要で、学生の学習スタイルとか、そのようないろいろな研究を致しまして、個性にあった学ばせ方を工夫していこうということもめざしております。

第5点は、メディアの効果的利用法の開発。これは本センターの設置目的にもありまして、多様なメディアをどのように大学の授業方法改善に役立てていくかということですが、メディアの活用法の研究とか、効果的な映像教材を制作していくというようなことを考えています。

第6点は、システム化による大学間ネットワークの確立です。先程お話ししましたように、全国の大学に資料を提供することをめざしております。そして、継続的に資料を蓄積して、全国の大学の先生方との共同研究を進めていこうと思っております。

そして最後に、授業改善に関する科学的研究の方法論の確立。ちょっとこれはまだ模索中で、確立までいくかどうかは、わからないんですけども、一応こういうことをめざしております。今日のタイトルも、より良い実践をめざして、だけにしてあげれば良かったかなとも思ったんですけども、大学の授業改善というのを、研究としても検討してみたいという思いがあります。と言いますのは、大学の授業改善に関

## 研究プロジェクトの特色

1. フィールド・スタディ  
映像化による教授学習の現場の対象化  
→ 具体的モデルの提示
2. 教授学習過程の実験的研究  
条件統制による教授法、教材提示法効果の検証
3. 学習過程の中からの教授法改善  
学習過程、効果、学生による授業評価  
などをふまえた効果的教授法の開発  
“より良い教授法は学習過程の追跡から”
4. 自己学習プログラムの開発
  - 1) 自己モデリングによる教授法改善  
× 画一的な教授法の提案  
○ 教授者自身による授業の工夫・改善の支援
  - 2) 学習活動の支援  
興味・関心に応じた学ばせ方の工夫
5. メディアの効果的利用法の開発  
メディアの活用法の研究、効果的な教材作成
6. システム化による大学間ネットワークの確立  
「授業改善支援システム」開発による  
改善資料の継続的蓄積と利用者間の情報交換
7. 授業改善に関する科学的研究の方法論の確立

図 I - 4

## 調査過程

1. 具体化と抽象化
  - 1) 具体と抽象の関連
  - 2) 抽象的概念の視覚化  
(見えないものを見るようにする)
2. 実践と理論  
身近な事例と基礎的学習の関連
3. 部分と全体の構造化
4. 画像情報と言語情報の提示
5. 学習者の参加をうながす授業
  - 1) 学生とのコミュニケーション
  - 2) 作業、課題提示
  - 3) 自主学習の支援

図 I - 5

しては、これまで先生方がそれぞれのご努力でやってらしたと思うんですけども、そういう個人的な実践を集めていった時に、何か一般化できることがあるかどうか、その方法は何かということなども探ってみたいと思っております。以上が、研究の特色として私共がめざしているところです。

それで次に問題提起についてお話ししますが、これはお手元にお配りしました資料に書いてあるものと同じです。(図 I-5)

この問題提起の内容は、私共の共同研究班で今年度に、これまでに2度の研究会をいたしましたけれども、その研究会の中で、いろいろ問題になってきた共通の話題、科目などは違っても共通の話題がありまして、それを私がまとめさせていただいたものです。取りあえず、問題提起をさせていただいて、これからの各先生方の話題提供の中にも、この問題提起に対する解答もあるかも知れませんが、また、その他のご出席の先生方の中で、こういう問題に関しての実践例をお持ちかも知れませんので、このようなことが問題になっているということを、まずお話し致します。

1つは具体化と抽象化ということです。具体的な内容と抽象的な内容をどのように教えるか、それらの関連はどうかとか、抽象的な概念を視覚化する、見えない物を見えるようにするには、どのような方法があるかとか、というようなことが、問題になりました。

もう1つは、実践と理論ということです。これも多少1番の問題とも関連がありますが、身近な事例と基礎的な学習の関連をどのようにつけていったら良いかということ。

それから部分と全体の構造化というのは、今、断片的な知識として持っていることが、全体としてはどのような構造化の中のどこに位置づけるのかといったような点を、なかなか学生さんがとらえにくいというようなことが出ておりまして、それをどのように教えたら良いかということがあがっておりました。

4番目の、画像情報と言語情報は、主としてビデオ教材などに関して問題になったのですが、ビデオ情報に限らず、映像的な情報と言語的な情報をどのように提示していったら良いかという問題があると思います。

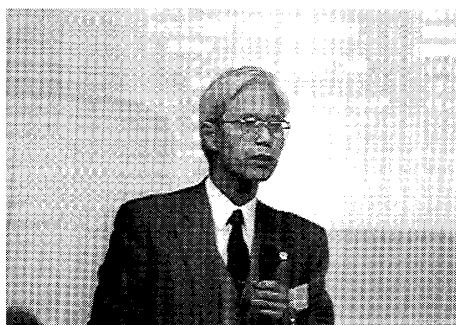
それから、5番目は4番までとちょっとまた次元が違うんですけども、学習者の参加を促す授業をどのように工夫したら良いかということです。一方的な授業ではなくて、学生とのコミュニケーションを増やすとか、あるいは作業とか課題を授業の中に入れていくとか、もっと自主的な学習を支援していくというようなことです。または、学生の興味や関心に応じて学習が進められるように、教師がどのように支援をしていくとか、そのような問題も出ておりました。これらはこれまでに、私共の研究班で話題になっていた問題で、まだ解決も出来ておりませんので、オープンクエストのような形で、後程提出させていただきたいと思っております。これらは、研究班の中だけで問題になったものですので、もっと全く違った角度から、先生方の方から問題提起がありましたら、是非お出しただいて、全体討論をさせていただきたいと思っております。それでは少し長くなりましたけれども、共同研究の概要と問題提起はこれで終わらせていただきます。

**司会者：**はい、どうもありがとうございました。本センターが先年行いました高等教育機

関に対するアンケート調査におきましても、やっぱり半数の国立、私立大学から授業改善ですとか、あるいはファカルティー・ディベロップメントに関する関心の高いことが示されております。ファカルティー・ディベロップメントについては教材研究室という組織の中で、今現在プロジェクトが進んでおりますが、そういう背景もありますので、この授業改善についての研究へのニーズは、非常に高いものというふうに思われますので、これから5件の事例をお話しいただくことに致しまして、それに対するコメント、質問等を皆さんから是非お受けしたいというふうに思っております。それではまず、大場先生の方からお願い致します。

## 試験答案から教授方法を学ぶ

大場 浩（聖隷学園浜松衛生短期大学教授）



大場：私は浜松の聖隷短大という看護の短大で、専門基礎科目である生化学というのを教えているんですけども、今回、初めてこういった話題提供という形でさせていただきますので、よろしくお願いします。ちょっと概要を説明しますと、看護短大における専門基礎として、いろんな科目があるわけですが、生化学もその中の1つです。われわれの短大では3年間のカリキュラムを組んでおりますけれども、その中

で、やはり専門の看護が圧倒的に多いわけですし、専門基礎といいますが、かなり時間数も限られておまして、大体実質は13回くらいの講義です。1回が90分で、これを13回ということで、一応その中で一通り、生化学の基礎的な知識というものを、あるいは生化学的なものの考え方というものを身に付けるということが、この専門基礎の中での1つの目的、目標になるわけです。ねらいや、それから概要をちょっと説明いたします。（図Ⅱ-1）

ただ今申し上げましたように、学習のねらいというのは大きくは、2つほど挙げられまして、1つは生体内における物質の流れや変化を、連続的に理解して全体的に把握するというふうな狙いがあります。それからもう1つは、生体というのは変化しつつも、全体としての恒常性を維持していると。こういうことを理解させたい、という狙いがあります。教授項目としましては、ここに挙げられましたような、主な項目としては4つほど挙げられるわけです。講義方法の概略としましては、特にこの項目（1）と（2）につきましては、全体の流れを書きました要旨をプリントにして渡しまして、それに従って説明して、連続的な理解、それから全体的な把握がしやすいようにやっております。それからそれを使えば、学生が独りで考えながら学べるというふうな形に致しました。代謝の、全体が終わったところで、特にこの代謝に関連する糖尿病時の代謝というのを取り上げて、それを全体像の中で捉えるという風に致しております。今回ですね、学生が実際にどういうふうな学び方をしているかということ、1つの例としまして、試験の答案から考えてみましたので、それについてもう